

令和元年度第1回小谷村総合教育会議 会議録

○開催日時 令和元年8月8日(木)
開会：午後3時00分 閉会：午後4時55分

○開催場所 小谷村役場 2階 204会議室

○出席者 小谷村長 中村 義明
副村長 風間 真二
教育長 山田 光美
教育長職務代理者 太田 明
委員 太田 加代
委員 村越くに子
委員 太田 久吉

○欠席者 なし

○職務のため出席した者 教育課長 鷺澤 美幸
総務学校係長 松澤 亮一
公民館長兼社会教育係長 中村 洋隆
小谷村保育園長 松澤 由佳
子育て支援係長 山田圭佐美

1 開 会

○教育長 ただいまから令和元年度第1回小谷村総合教育会議を開催します。あらかじめお知らせしますが、本日の会議は会議録を調整し、ホームページで公開いたします。ただし、個人を特定できるような案件の場合には、その部分は非公開といたします。

2 あいさつ

○村長 令和元年度総合教育会議に、お集まりいただきありがとうございます。

当然ですが、総合教育会議の出席は初めてですので、皆さんからお話を聞く部分が多いと思います。また、本日、太田久吉委員さんを教育委員として任命をしました。様々な面でご協力をお願いします。

一昨日まで、スキープロモーションの関係で阿部知事とともに中国を訪問してきました。阿部知事と話す中で、知事は「学びと自治」ということを大切に考えていて、私も「自治の力・学びの力」ということは大切だと感じています。小谷村の子ども達をしっかりと育て、いずれ村に戻って来ていただく、あるいは、新しい人達に村に来ていただける環境を作るということが、学びという点では必要ではないかと思っています。

小谷村では第6次総合計画について、来年度から取り組んでいかなくはならない内容でありますので、それに向けて総合教育会議において、小谷村の未来を担う子ども達の

将来について活発な意見交換をしていただきたいと思います。

3 自己紹介

風間副村長 教育委員 教育長 事務局職員 の順に自己紹介

4 教育委員会事務分担表について

○教育課長 (資料：事務分担表について説明)

5 協 議

○村長 協議に入ります。(1) 小谷村総合教育会議の運営と教育大綱について、教育課長説明をお願いします。

○教育課長 (資料1 説明)

○村長 説明が終わりました。ご意見等ありましたらお願いします。

○教育長 すべての教育行政において、大綱を意識して進めているかということ、必ずしもそうではありませんが、なるべく大綱の大きな柱に合致するよう、今まで教育施策を考えてきたつもりです。

(その他に質疑・意見等なし)

○村長 続いて、(2) 児童生徒の様子や今後の推移について、教育長説明をお願いします。

○教育長 (資料2 説明)

小谷小学校開校時から平成27年までの10年間における児童減少率は約32%。人数にして58人の減少で開校当時の3分の2に減少しました。この間の減少スピードは非常に早かったと感じています。なお、今日の新聞に大町市の減少率が掲載されていましたが、大町市はこの10年で小学生が1,846人から1,107人に減っており、減少率でいうと40%です。小谷村をはるかに上回るスピードで子どもが減少しています。このことは、今後の大北地域の高校運営にも影響が出てくると考えられます。小谷村では、平成27年度以降は減少率が5.7%となり、緩やかな減少になっています。これは、教育委員会ばかりではなく、特産推進室の移住定住施策や住民福祉課の出産・子育て支援など全庁的な施策トータルでの取り組み結果であり、小谷村で子育てをしたいと思う人たちが増えている証だと思います。

今後の移住定住を加味しない予測では、令和7年までの推計で小谷小学校の児童数は103人、100人を割るのはもう少し先になると思われます。

○村長 ご意見等がありますか。「小谷の教育行政はすごく良いよね」という話を聞くことがあります。他の自治体と違う点があったら教えてください。

○太田明委員 教育行政とはちょっと違いますが、学校の先生方からは小谷村の学校は、とても恵まれているということをお聞きします。

○村長 おたり学校園について、小谷村の特徴的なものとして考えてよいでしょうか。

○教育長 おたり学校園は、平成28年5月に立ち上げました。学校の先生は定期的な異動があり、力のある先生だけを選ぶこともできませんし、先生方には個性もあります。村の教育を系統だったものにするためには、先生任せではだめですので保育園・小学校・中学校合同で職員会議を開いたり、保護者や地域の方にも加わっていただき、同じ目標

に向かって子ども達を指導してもらうように活動するのがおたり学校園です。それと合わせて、小学校・中学校それぞれに村費の講師が2人ずついますが、例えば配慮が必要な園児の様子を見に保育園に行って、スムーズな小学校就学につなげていく。また、中学校に進学した生徒に対して、中学校での生活が円滑にいくようカバーするなどしています。さらに小学校高学年は、来年から英語が教科化されますので、中学校の英語の先生に小学校に来てもらい、その準備を手伝ってもらっています。このように保小中を行き来するやり取りができる、自由度が高いことが学校園の利点だと思っています。

(その他に質疑・意見等なし)

○村長 (3)子育て支援策の充実強化に向けて、教育長説明をお願いします。

○教育長 (資料3 説明)

本日提案したいのは、今まで以上に子育て支援をさらに充実させていくための施策であります。先ほど説明しましたとおり、保育料は10月から無償化となります。その差額は、国から交付金として村に対して助成があり、財源とすることが決まっています。これから先、考えたいのは、小・中学生を持つ家庭に対する支援で、特に多子世帯、第3子以降が小・中学校に在籍する世帯に対して給食費の免除制度を創設してはどうかという提案です。該当者は中学校では、1名、小学校は16名いると思われます。中学生が1食315円で195日、小学生が275円で200日ですので、計算では約94万円の予算が必要ですが、今後の見通しとしては、少子化の傾向が止まらないことは確かなので該当者が増えることはないと思います。財政的な協議が整えば、来年4月1日から実施したいと思います。

○村長 説明が終わりました。小谷村の課題などもありましたらご意見として出していきたいと思っておりますし、教育長から提案のありました、多子世帯への給食費免除制度についてもご意見をお願いします。免除を受けられる世帯にとっては、非常に良い内容だと思いますので、広く周知することも大切だと思います。

○村越委員 資料3に示している「良い内容」を、村民の皆さんだけでなく、村外の人、小谷に来たいと思っている人にも知らせていく広報活動があれば、小谷に来ていただける人が増えるのではないかと思います。

○教育課長 特産推進室で作った「移住ガイドブック おたりで暮らす」に記載しており、銀座NAGANOのインフォメーションコーナーに置いてあります。移住ガイドブックは小谷村のホームページでも見ることができます。広報についてはまだ足りない部分があるかと思っておりますので、努力してまいります。

○太田加代委員 私は、白馬村の小学校に勤務しているのですが、白馬の保護者の方からも「小谷の学校は恵まれているね」「うらやましいね」というお話をよく聞きます。なら、どうぞ小谷村へという話をよくするのですが、移住となると課題があるのかなと思います。隣の村からも、うらやましいという声がたくさん聞かれるので、遠くの人には魅力的なのではないかと思います。ただ、うらやましいと思っても移住に踏み切れない何かがあるのだとしたら、それが何かを知ることが必要ではないでしょうか。

○村長 移住してもらうための何か足りないかもしれないということですね。

○太田明委員 以前の教育委員会の中でも、給食費のことが話題になったのですが、村議会の一般質問で給食費の無料化を訴えている議員さんがいますが、私は基本的には給食費

の完全無償化は反対です。それは親が働いて子ども達を養っている、そのおかげでご飯が食べられる・給食を食べられるということのありがたさをわかって欲しいという思いからです。第3子以降の子どもに対しては、親の苦労を軽くしてあげるという意味で、良いことではないかと思えます。このような施策をどんどんPRしていけば多少なりとも少子化に歯止めが掛かる一因になるのではないかと思えます。

○村長 第3子以降が対象ということで、私は子どもが4人いますので、もう少し早くやって欲しかったなと思えますが、非常に良い施策だと思います。PRの方法も考える必要がありますが、「親が働いて、子どもを育てるとはどういうことか」という教育委員会の姿勢はいいと思えます。そういうことをアピールするのも良いと思えます。

○太田久吉委員 子育てに関する施策を考えていることは、とても良いと思えます。先々を見据えたとき、2033年には旧12通学区内の中学校を卒業する生徒は、50%くらい減って、今は500人くらいですが300人を切ると言われています。学級数でいうと今は11学級ですが6か7学級で足りてしまう。高校が1校2校無くなっても大丈夫な状況になってしまいます。そういうことを考えたときに、小谷村はそれほど減少しないということは頑張っているなと思えます。高齢者はますます増えるし、先が暗いなと思っています。子どもが幸せになって子どもの数が増えるということは、親がこの村で幸せに暮らすということで、親が幸せに暮らすためには生活基盤がしっかりしなければならぬと思えます。私も子どもが2人いますが、小谷に帰ってくるつもりはなさそうだし、親も小谷村で暮らせとは言いにくいというのが現実だと思います。

○村長 今のご意見は、本音なのだろうと思えますし、村も真剣に考えなければならぬことだと思います。広域で対応していくことだと思いますが、産婦人科や小児科の病院が充実していない、医師が不足しているということも、移住をためらう要因になっているのではないかと考えています。本日提案の関係については、もう少し審議しながらですが、おおむね提案の方法で実施することとしたいと思えます。次に(4)幼児教育無償化に対する今後の対応について、保育園長、説明をお願いします。

○松澤保育園長 (資料4 説明)

○教育長 制度の概要では「0～2歳児」とありますが、村の保育料の表では「1～2歳児」としています。以前からの教育委員会と保育園の方針として、せめて1歳になるまでは、お母さんの手で育ててほしい、保育園に預けるのは待っていただくということで運営してきました。なので、0歳～ではなく、1歳～としています。これから先も、特別な事情のあるご家庭は除き、1歳になるまでは親子の絆を深める時間にあてて欲しい、保育園に預けるのは1歳になってからという方針で運用してまいります。さきほど、白馬村幼稚園に通園している園児が2名と報告しましたが、幼稚園で教育させたいという保護者の強い思いから白馬に通っています。しかし、小谷村保育園は、定員80名のところ、現在、園児数は60名で定員に空きがあります。小谷村保育園が定員に満たない中、一人でも多くの園児に入園してもらいたいところですので、その園児と小谷村保育園に通う園児を同等の条件とすることは難しいと考え、幼稚園に通う園児の食材費についての助成は行わないと決めたところです。白馬村では、幼稚園に対しても同等の助成をしないと、しろま保育園に園児が集まってしまい、待機児童が出てしまう可能性があるため、保育園も幼稚園も同じに助成をすと思われれます。白馬村とは、対応が少し違うということをご理

解ください。

- 村長 ご意見はありますか。続いて、(5) 公営おたり塾の開設状況等について、松澤係長説明をお願いします。
- 松澤係長 (資料5 説明)
- 村長 ご意見等ありますか。
- 太田明委員 2年生で英検3級を取得した生徒が0人なのは、何か理由があるのでしょうか。
- 松澤係長 3級は中学3年生レベルになるので、2年生は4級・5級を受験したということです。1年生から積極的に英検を受験しているクラスだと、どんどん次の級にチャレンジしていくので、たまたまこの学年は、ということだと思います。
- 太田久吉委員 級によって受験料がだいぶ違うのですが、補助金は一律ですか。ダブル受験の場合は倍額で。
- 松澤係長 補助金は一律2,000円で、年度中一人2,000円を上限として補助しています。
- 教育長 太田久吉委員、英検の何級が何年生レベルかを説明していただけませんか。
- 太田久吉委員 3級が中学3年生レベルで、準2級は高校1年生レベルといわれますが、中学生で準2級をとるのはなかなか難しい、相当優秀だと思います。
- 村長 例えば、小谷中学校では、全員が準2級を目指すといったことはできるのですか。
- 太田加代委員 3級からは2次試験があり、1次試験は学校で受験できますが、二次試験は松本市まで行って受けなければなりません。当然松本まで行くにはお金がかかりますし、保護者の協力がないとできません。
- 教育課長 二次試験は深志高校で行うことが多いのですが、松本まで連れて行って、試験の間2時間近く待っているという保護者の負担を考えると、今後支援するとしたら、2次試験対応の支援を考えたほうが良いと思います。
- 松澤係長 一次試験も、それなりの人数がいないと学校では受けられないのですが、小谷中学校は大勢が受験するので学校で受験できています。
- 村長 課題はありますが、少しでも上を目指すのは良いことだと思いますので、支援は必要だと思います。公営おたり塾についてですが、部活動をやっている生徒には受講しにくいといったことはありませんか。部活動をやらない日に、受講したい塾がないといった話を聞いたことがあります。
- 松澤係長 部活動があるから受講しにくいという話は聞いたことはありません。テストや個人面談などで、月によって週間予定が違いますので、部活動と予定が合わないことはあると思います。
- 村長 部活動の面などクリアできることは今後考えていただきたいと思います。登録人数が昨年より倍に増えているということは、すごいことだと思います。非常に良い取り組みですので、引き続きお願いします。
- 副村長 説明を聞き、公営おたり塾という、すごいことをやっているなと思っています。質問ですが、高校生の教室は土曜日だけなのでしょうか。また、高校生の1回あたりの受講人数が少ないですが、中学生と一緒に学んでいるのか、マンツーマンの形で学んでいるのか、どちらでしょうか。
- 松澤係長 ほぼ個別指導の形になっています。高校生は平日だと遅い時間になってしま

- いますが、土曜日ですと時間の融通が利くので、細かく分けて指導を行うことができます。
- 副村長 高校生には、理科と数学という大切な教科の塾なので、受講生が少ないのはもったいないと感じます。少しずつ生徒に浸透して、受講者が増えるとよいと思います。受講料を見たときに、他市町村で塾に通っている生徒から見たら、うらやましい金額ですし、毎回出席できなくても良いから受講したいという生徒が出てきて欲しいです。
- 教育長 現在、奥原先生には土曜日に塾をやっていただいて月曜日をお休みにしてもらっていますが、教えて欲しいという生徒が増えてきているので、土曜日以外に日曜日にも塾を開いて、月曜日と火曜日をお休みにすることを考えています。子ども達の要望になるべく応えられるように考えたいと思います。
- 村長 続いて、(6) 新 小谷村総合型地域スポーツクラブの運営について、公民館長説明をお願いします。
- 中村公民館長 (資料6 説明)
- 村長 このことについて意見交換をお願いします。資料には(案)となっていますが、この場で決定するということですか。
- 中村公民館長 もう少し内容を精査しなくてはなりません。人選もしたうえで、お諮りしたいと思っています。
- 村長 バトミントンが人気だという話ですが、中学校の運動部の現状では、スキー部と陸上部しかないのでバトミントンをやりたいという話は中学校内で出ていますか。
- 中村公民館長 バトミントン部を作って欲しいという話は出ていますが、顧問の先生をどうするか、指導者はどうするかということで非常に難しいと思います。その部分を社会体育で補うことができると考えています。
- 村長 新総合型地域スポーツクラブだと、社会体育に位置付けている色々な活動ができるということですね。スポーツ指導員の資格を持っている人の把握はしていますか。
- 中村公民館長 はい、把握しています。総合型スポーツクラブには、アシスタントマネージャーの資格を持った人が必要で、現在それを持っているのは北村順二さんと宮澤容子さんの2名だけですので、資格を取得してくれる方も探さないといけません。
- 村越委員 アシスタントマネージャーの資格は、講習を受けて試験を受けに行かなくてはならないということですか。村の総合型スポーツクラブのために取りに行くのですから、補助金などの措置はできますか。
- 中村公民館長 小谷村人材育成事業補助金を使って資格を取得することも可能ではないかと考えています。競技によっては、日本体育協会の指導員資格がないと総合型として運営ができないということになりつつあります。
- 副村長 総合型スポーツクラブでジュニア部門が活動するときに、中学生などが大会に出る場合は、学校名で学校の先生がついていかななくてはいけないのではなかったですか。
- 中村公民館長 はい、基本的にはそうですが、校長先生が認めれば総合型の指導員が引率しても良いことになっています。
- 村長 小谷村にも優秀な選手は多数いますので、新総合型スポーツクラブの検討はいいことだと思います。この件については、引き続き検討していただくということでお願いします。全体を通して何かご意見はありますか。(なし) 協議事項は、以上とします。

6 意見交換

- 教育長　それでは意見交換ということで、わずかな時間ではありますが、自由に意見交換をしたいと思います。
- 村長　私の方からは、その都度お話しさせていただきましたので、特にありません。
- 村越委員　先に話題に出ましたが、子どもが減っている中で、山村留学というお話がありました。村長はどのように考えていますか。
- 村長　山村留学については、前向きに考えたいと思っています。議会の答弁でもお話ししています。以前やっていた山村留学とは、違った形でやらないとできないと思っています。以前は、学級を維持する、複式学級の解消を目的にやっていたと思います。そうではなくて、移住してもらうことを目的とするというのも一つの手段ではないかと思っています。もちろん、地区や村民にお願いしたり説明しなくてはならないので、拙速には進められません。山村留学という考えは持っています。
- 村越委員　以前の山村留学の目的は、クラスの人数を増やすことも目的ではあったと思いますが、都会の人たちが小谷に来るメリットがあったと思います。設立当初は、田舎の暮らしを体験させたいという人がたくさんいて、保護者も頻繁に小谷に来ていたと思います。山村留学を続けている間に、少しずつ目的が変わってきたのだと思います。子ども達の団体生活に係る費用は相当なものですので、最後には村の負担が多くなってきたこともあって、やめる原因になったと思います。
- 村長　検討する事項は多いと思います。当初の中土小学校を維持していかなくてはいけないということとは、意味合いが違います。いろいろ審議しなくてはいけない内容だと思います。
- 教育長　過去の経験上ですが、子どもさんだけを預かって地元の子とも一緒に経験を積ませるというやり方は、今の時代では難しいと思います。地元のPTAの協力がありません。大町市は「育てる会」に全面委託して、八坂・美麻で山村留学を行っています。宿舎となるセンターを用意し、育てる会に委託料を支払って指導員を確保して行っています。こういうやり方もありますが、かなりの経費が掛かります。他の例ですが、南相木村でやっている山村留学は、お母さんと子どもに村に住んでもらって、お父さんは金曜日の夕方から日曜日の間、村に滞在してもらう。お父さんは単身で平日、都市部で通常通り働くので仕事を変えることもない、という方法もあるようです。
- 村長　会場ははっきりわからないのですが、9月に山村留学の紹介のイベントがあるということなので、私も都合がつけば行ってみたいと思っています。
- 教育長　今の小谷村の小・中学校に合ったものを合体させる形でやるべきで、無理してやっただけで本家である学校に影響がでてしまったりは本末転倒になってしまいます。
- 村長　本末転倒だけは避けなくてはなりません。山村留学を行うには、様々な面で村民に関わってもらわなければならないので、十分な説明と理解を得ることが大切だと思っています。実際に、過去の山村留学を体験した方の中には、小谷村に残ってくれている人もいます。当時とは状況は違っていますが、今の小谷村にあった山村留学というものを、作っていくには、そういった人たちの意見を聞くことも一つの手段ではないかと思いません。他にご意見はありますか。
- 太田明委員　子ども達の交通安全、特に交通事故から守るということは、大人の義務であ

ると思います。今の時点で私たちができることは、行政の力を借りて、警察など関係各所をお願いをすることです。毎年の除雪作業によって、道路の横断歩道や路側線が消えてしまっている箇所が多数見受けられますので、早急に対処していただくよう要望していただきたいと思います。また、毎年のことですので、県の方で予算を確保していただけたらありがたいと思います。

○村長 要望活動としては、毎年上がってくる内容であると思いますので、担当課と相談して対応してまいります。

○教育長 以上で、令和元年度第1回小谷村総合教育会議を閉会といたします。